

## 戸井の歴史

### ⑤「戸井貝塚出土品」

※画像は「市立函館博物館所蔵」

縄文時代中期末から後期初頭に作られた戸井貝塚からは、エゾシカの角で造られた角偶（かくぐう）や舟形土製品など、多くの出土品があった。現在はその上に国道278号が整備されたため、その痕跡を確認することはできないが、出土品の内514点が、漁労を生業とした当時の生活や採集技術などを知る上で極めて重要であることから令和元年に函館市の指定文化財となり、市立函館博物館に保管され、その一部（レプリカ含む）は戸井西部総合センター内に展示されている。



### ⑥「袋潤（ふくろま）」



汐首岬の北海道本州最短の地付近には、明治33年（1900年）から昭和初期までの約40年間続いたイワシ豊漁期に、しけなどで沖揚げできなかったイワシを網につめて、一時的に保管するために造られた袋潤と呼ばれる遺構が現存している。これは、当時の網元達が、瀬田来から汐首にかけての海岸に莫大な費用を投じて造った袋潤の内のひとつである。当時は、イワシの豊漁により、イワシ大尽、イワシ成金が現れ、栄華を極めたと伝えられており、袋潤は当時を今に伝える貴重な遺産となっている。

### ⑦「旧戸井線アーチ橋」



戸井線は、五稜郭駅から戸井駅（現在の函館市浜町）までの2.9kmを結ぶ予定で、昭和12年（1937年）に着工された鉄道である。津軽海峡の防備のために昭和8年（1933年）に建設された汐首砲台への物資輸送や青函連絡船の輸送距離を短縮するために整備する計画であったが、戦局悪化や資材不足により、わずか2.8kmを残し工事は中断され廃線となった。一度も列車が走ることがなかった幻の鉄道跡である。※外観のみ見ることが出来るが立入は不可

### ⑧丸山龍神宮伝説



道道970号線（蛾眉野原木線）沿いには、丸山という霊山があり、その頂上付近には、「丸山龍神宮」という祠がある。山で働く林業者などには「山の神」、戸井の漁師には「大漁の神」として、昔から大切に信仰されてきた神様だ。この神様の例祭日には不思議な出来事が起こるといふ伝説がある。祠に持参した酒や魚、卵、果物などをお供えし、更に30mほど登った頂上にある「お穴」へ同様の物をお供え後、祠まで戻る。30分ほど待機し「お穴」にお供えした物を見に行く、不思議なことにお供えした卵や魚などが無くなっているのだ。これは、丸山の龍神様が受け取るのだという。その供物の無くなり方によって、その年の漁などについて占う。また、この「お穴」は武井の島にあるという鮫穴と通じているという伝説も残されている。

### ⑨道南駅伝競走大会



戸井学園をスタートし、1周11.42kmのコースを4人の走者でつなく駅伝大会。毎年小学生から一般まで70チームを超す参加者が秋の津軽海峡を眺めながら走る戸井の一大イベントである。参加者は戸井の名産の「タコ」が入った美味しい物が食べられるかも？※毎年10月の日曜日に開催される。

### ⑩戸井マグロ



津軽海峡で獲れる戸井の本マグロは「戸井活×鮪」のブランドで知られている。大型船で漁に出て、獲った直後に船上で血抜き処理を施し、すぐに氷水で冷やししながら港に戻るため、鮮度が高く保たれ、その処理技術の高さから、品質日本一と言われている。平成23年には、築地市場での初競りで、342キロの大口が当時史上最高値3,249万円を付け、全国的にその名をとどろかせた。

## 函館市

# 戸井地域観光MAP



## 戸井イメージキャラクター トープスちゃんは

戸井の特産品の「タコ」をモチーフに  
昭和63年（1988年）に誕生！  
旧戸井町の「とい」と「オクトパス」から  
イメージして名付けられました。

## 戸井とは

津軽海峡を隔て青森を望む、北海道本州最短の地「戸井」は古くから漁業により栄えた地域であり今なお、漁業を基幹産業とする自然環境に恵まれた美しい地域です。

平成16年(2004年)12月1日に「戸井町」は「恵山町」「楸法華村」「南茅部町」と共に函館市と合併しました。

2026年2月版



戸井支所HP

